

お取引先企業様とともに安全で安心な職場づくりを目指すことを目的に、災害の未然防止に役立つ情報をお届けします。

◆安全に上り下りするための『3点支持』

近年、踏み台や階段などからの転落災害が増加傾向にあります。その背景には、労働者の高年齢化や、現場における人手不足による慌ただしい作業環境などがあると考えられます。また、多くの場合、手すりを持たないなどの不安全な行動が見受けられ、高所や高低差のある場所で移動する際に、安全な動作である『3点支持』が守られていないケースが目立ちます。

3点支持とは？

ハシゴ・脚立・踏み台等を使用して上り下りする際に、転落災害を防止するための基本動作です。両手・両足のうち、常に3点（例：手2本＋足1本、または手1本＋足2本）で体を支えることを原則とし、動かすのは残りの1点のみとします。この動作を繰り返すことで、手が滑ったり、足を踏み外したりしても、バランスを保ちやすく、転落リスクを大幅に低減することが可能です。

あらゆる場面で活用される『3点支持』

この『3点支持』は、登山において危険な岩場を移動する際に活用されており、安全確保のための基本動作として知られています。また、フォークリフトへの乗降時などでも『3点支持』の実施が推奨されています。



ぜひ現場でも、この『3点支持』の有効性を再認識いただき、教育・指導の徹底をお願いいたします。

◆ちょっとした言葉が災害リスクを低下

機械トラブルが発生した際、担当ではない作業にもかかわらず、自己判断で対応し、ケガをしたケースがありました。弊社では、雇い入れ時の教育において『トラブル発生時の3原則』を必ず教育しています。

トラブル時の3原則	1. 止める	⇒ まずは作業を止める
	2. 呼ぶ	⇒ 現場責任者・リーダーに異常を知らせる
	3. 待つ	⇒ 現場責任者・リーダーの指示を待つ

しかし、残念ながらこの3原則が守られなかったために、痛ましい災害が発生したことがありました。被災者に『なぜ3原則を守らなかったのか』を聞き取りをしたところ、次のような理由が挙げられました。

- ・現場責任者が忙しそうで、声をかけづらかった
- ・作業を止めてしまうと、迷惑になると思った

このような『気遣い』や『遠慮』が、結果的に大きな身体的代償を生む結果となりました。

『ありがとう』の一言が安全を守る

こうした状況を未然に防ぐため、弊社のある取引先では次のような取り組みが行われています。トラブルの報告があった際には、『**ケガをする前に報告してくれてありがとう**』と声をかけるようにされています。このような取り組みによって、現場では3原則を守りやすい雰囲気生まれ、報告・相談がしやすくなったとのことです。ぜひ貴社の職場でも、参考にいただければ幸いです。